



Unified CVP ライセンシング

- [ライセンス計画, 1 ページ](#)
- [評価ライセンス, 3 ページ](#)
- [ライセンスの生成, 3 ページ](#)
- [Call Server/VXML Server/Reporting サーバのライセンスの適用とアップグレード, 4 ページ](#)
- [Call Studio のライセンスの適用とアップグレード, 5 ページ](#)

ライセンス計画

Unified CVP のライセンスは、Unified CVP Server のライセンス、Unified CVP ポートのライセンス、Unified CVP コール ディレクタのライセンス、冗長ポートのライセンスから構成されています。各 Unified CVP コンポーネントのライセンスはそれぞれのコンポーネントの IP アドレスに関連付けられています。

Unified CVP Server、VoiceXML Server、または冗長サーバなどのサーバごとにライセンスを注文してください。これらのサーバは、Reporting サーバおよび Operations Console Server を除き、Unified CVP ソフトウェアをホストします。

表 1: CVP コンポーネントと必要なライセンス

CVP コンポーネント	必要なライセンス
コール サーバ	<ul style="list-style-type: none">• Unified CVP のライセンス• コール サーバ ソフトウェアのライセンス
VXML サーバ	<ul style="list-style-type: none">• Unified CVP のライセンス• VXML Server ポートのライセンス

CVP コンポーネント	必要なライセンス
Reporting サーバ <ul style="list-style-type: none"> • 標準 (デュアルプロセッサ) • プレミアム (クワッドプロセッサ) 	CVP Reporting サーバのライセンス
Call Studio	Call Studio のライセンス

Unified CVP は、コールサーバ、Reporting サーバ、VXML Server、Call Studio の FlexLM ライセンスをサポートしています。Unified CVP でサポートされるライセンス機能は、次の表のとおりです。

表 2: CVP サポート対象のライセンス機能

サポート対象のライセンス機能	説明
CVP_SOFTWARE	Unified CVP に必要な基本機能ライセンス。
CVPPorts および SelfServicePorts	コールサーバおよび VXML Server のポートのライセンス。コールサーバのライセンスは、コールサーバの SIP セッション数を対象とします。単一のコールサーバライセンスで最大 1,200 セッションをサポートします。VXML Server のライセンスは、セルフサービスポートとキュー内のセッションの数を対象とします。
RPT	Reporting サーバのライセンス。

すべての CVP コンポーネントの CVP ライセンスは、%CVP_HOME%\conf\license にある cvp.license ファイルにまとめられています。Operations Console からライセンスを展開すると、cvp.license ファイルにそのライセンスが追加されます。ライセンスファイル内に CVP コンポーネントの有効なライセンスが複数ある場合は、ポートのライセンスを追加できます。たとえば、CVP ライセンスファイルに 200 個の VXML ポートがあり、100 個の VXML ポート用の追加ライセンスを適用すると、VXML サーバは両方のポートのライセンスを加算して、300 個のライセンス供与済みポートを作成します。



(注)

- Reporting サーバにライセンスがない場合、電源をオンにすると、メッセージのカウントが開始されます。メッセージがデータベースに書き込まれると、Reporting サーバがローカルの日付を確認します。データベースへの書き込みが1日のうちに10,000に到達すると、アラームが送信され、メッセージはデータベースに書き込まれなくなります。10,000という数は、データベースに書き込まれた挿入数と更新数の両方の合計です。ローカルの日付が変更すると、データベース書き込みとカウントが再開します。
- コールサーバと Reporting サーバは、追加ライセンスをサポートしていません。
- Unified CVP は、ライセンス使用状況をレポートしなくなりました。その代わりに、`cvp.license` ファイルでの使用可能なポートの最大数に基づいたポートの使用状況をレポートします。この変更は、すべてのレポート、[Operations Console Statistics] ページ、および診断ポータルライセンス情報要求に影響します。以前のリリースと同様に、アラームはライセンス使用状況がしきい値の90%、94%、および97%のときに発行されます。

評価ライセンス

Unified CVP インストールには、評価ライセンスがバンドルされています。このライセンスは、30日間有効で、すべてのコールサーバの30個のポート、Reporting サーバの10,000回のデータベースの書き込みと更新をサポートしています。評価期間の終了後は、ライセンスをアクティブ化する必要があることを示すため、サーバがアプリケーションサーバコンソールと起動ログにメッセージを記録します。引き続き機能させるには、評価期間中または期間後にコンポーネントごとにライセンスを購入してください。



(注)

- ライセンスがなかったり、無効であったり、期限が切れていると、ライセンスは非アクティブであると見なされます。
- コールサーバと VXML Server は評価ライセンスで30個のポートをサポートします。このライセンスは、簡単なテストまたは評価に役立ちます。インストール後30日の評価ライセンスの期限が切れても、必要な数の同時セッションをサポートするために、実稼働サーバにライセンスが常に適用されている必要があります。

ライセンスの生成

はじめる前に

Unified CVP ソフトウェアとともに受け取った製品認証キー (PAK) にアクセスします。

手順

-
- ステップ 1 <http://www.cisco.com/go/license> にログインし、[Click here to continue to Product License Registration] をクリックします。
- ステップ 2 [Get New Licenses From PAKs or Tokens] セクションで、[Enter a Single PAK or Tokens to fulfill] テキストボックスに PAK を入力し、[Fulfill Single PAK] をクリックします。
- ステップ 3 (任意) 複数の PAK を PAK リストにロードするには、[Load More PAKs] をクリックします。
-

Call Server/VXML Server/Reporting サーバのライセンスの適用とアップグレード

手順

-
- ステップ 1 [Device Management] メニューから、Unified CVP コンポーネントを選択します。ネットワーク マップに追加されている Unified CVP コンポーネントが [Find, Add, Delete, Edit] ウィンドウに一覧表示されます。
- ステップ 2 Unified CVP コンポーネントのリンクをクリックし、[Edit] をクリックします。
- ステップ 3 ツールバーで、[File Transfer] > [Licenses] をクリックします。選択した Unified CVP コンポーネントのホスト名と IP アドレスが一覧表示された [File Transfer] ページが表示されます。
- ステップ 4 [Select From Available License Files] で、ライセンスファイルを選択し、[Select] をクリックします。
(注) ライセンスファイルが [Select From Available License Files] テキストボックスに一覧表示されていない場合は、[Select a License File from Your Local PC] をクリックし、テキストボックスにファイル名を入力するか、[Browse] をクリックし、ローカルファイルシステムのライセンスファイルを検索します。
- ステップ 5 ライセンスファイルを選択した Unified CVP コンポーネントに転送するには、[Transfer] をクリックします。
- ステップ 6 Operations Console を介して Unified CVP コンポーネントを選択し、再起動します。詳細については、『*Operations Console Online Help for Cisco Unified Customer Voice Portal (Cisco Unified Customer Voice Portal Operations Console のオンラインヘルプ)*』を参照してください。
-



- (注) すべての VXML ライセンス ポートが使用されている場合に Unified CVP 10.0(1) を起動すると、VXML Server は保留中の同時コールの総数を VXML ライセンス ポートの総数の 10% に制限します。

次に例を示します。

600 個の VXML ライセンス ポートを展開する場合で、すべての VXML ライセンス ポートが使用中のときは、VXML Server が保留中にできる同時コールは 60 のみです。

次の作業

- VXML Server が動作しており、status.bat または status 管理スクリプトでライセンスが適用されていることを確認します。このスクリプトを %CVP_HOME%\VXMLServer\admin で実行し、出力を確認します。
- Operations Console で、Reporting サーバが動作していることを確認します。詳細については、『*Operations Console Online Help for Cisco Unified Customer Voice Portal (Cisco Unified Customer Voice Portal Operations Console のオンラインヘルプ)*』を参照してください。
- Unified CVP ライセンスの詳細については、『*Configuration Guide for Cisco Unified Customer Voice Portal (Cisco Unified Customer Voice Portal の設定ガイド)*』を参照してください。

Call Studio のライセンスの適用とアップグレード

手順

- ステップ 1** 製品認証キー (PAK) を取得し、Cisco license tool (<http://www.cisco.com/go/license>) で番号を入力します。
ライセンス ファイルが返されます。
- ステップ 2** ライセンス ファイルをテキスト エディタで開き、内容をコピーします。
- ステップ 3** Unified Call Studio を起動します。
- ステップ 4** メニューから [Help] > [Activation] を選択します。
- ステップ 5** [License] フィールドに、ライセンス テキストを貼り付けます。
- ステップ 6** [Activate] をクリックします。
- ステップ 7** [OK] をクリックします。
Unified Call Studio ライセンスがアクティブになります。

